

農業は山形県の基盤産業であり、生産から加工、流通、販売、さらには観光との連携など、幅広く地域経済を活性化する原動力となっています。

本県には、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」などの良食味の米、初夏の味覚である「佐藤錦」「紅秀峰」「やまがた紅王」などのさくらんぼや西洋なし「ラ・フランス」を代表とする果樹、季節を届けるすいかやメロン、えだまめなどの野菜、暮らしを彩るバラや「啓翁桜」、アルストロメリアなどの花き、「総称山形牛」や銘柄豚、「やまがた地鶏」などの畜産物、素材の特性を引き出し付加価値を高めた農産加工品等々、四季折々のおいしさや華やかさを兼ね備えた農産物が数多くあります。

これらは、山形県の豊かな自然と、先人の英知とたゆまぬ努力で築き上げてきた高い農業技術に加え、新品種や新技術の開発・普及とブランド化に、生産者の皆様、市町村、JAグループ等関係機関が一体となってオール山形で取り組んできたことによるものです。

一方で、担い手の高齢化と減少による生産基盤の変化、地球温暖化による気象変動の拡大、さらには、新型コロナウイルスの影響やウクライナ侵攻等による社会・経済環境の変化など、農業を取り巻く情勢は時々刻々と変化しております。

このような中、本県農業の持続的な発展に向けて、本県の優位性を発揮し山形ブランドをけん引する競争力の高い新品種や社会・経済環境の変化に対応し新たな価値を創出する技術、自然環境の変化に対応しSDGsに寄与する技術、ICT等先端技術を活用した省力的・効率的な技術・手法などの開発によって、農業者の所得向上、経営安定を目指すことが重要であると考えております。

さらには、多様な担い手が将来にわたって「夢」と「希望」を持ち続けて農業に取り組むことができるよう、次代を切り拓く技術開発に努めていくことも大切な役割です。

当センターでは農業・農村の現場ニーズへ速やかに対応すると共に、生産現場へ提案する技術開発にも積極的に取り組み、得られた成果の技術移転に努めてまいります。

今後とも関係者の皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

山形県農業総合研究センター
所長 佐藤 寧

